



俳諧十論
圖書



佛經十篇開書上卷

上

佛經十篇開書上卷

佛經傳 佛經道 佛經德 佛經真諦 佛經情諦

佛經地 佛經地 言行佛 言行佛 法或佛

佛十篇... 佛經之類 佛經之類 佛經之類

佛經之類 佛經之類 佛經之類 佛經之類

佛經之類 佛經之類 佛經之類 佛經之類

佛經之類 佛經之類 佛經之類 佛經之類

佛經之類 佛經之類 佛經之類 佛經之類

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document, written on the right page of the notebook. The text is dense and fills most of the page.

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document, written on the left page of the notebook. The text is dense and fills most of the page.

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document. The text is written in a dark ink on aged paper. The script is highly stylized and difficult to decipher without a key. It appears to be a personal or official communication.

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document. The text is written in a dark ink on aged paper. The script is highly stylized and difficult to decipher without a key. It appears to be a personal or official communication.

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document, written on the left page of the open book. The text is dense and fills most of the page.

Handwritten text in cursive script, likely a letter or document, written on the right page of the open book. The text is dense and fills most of the page.

Handwritten text in a cursive script, likely a transcription of a letter or document. The text is written vertically on the right page of the open book.

石のよー 稿を在りて
若の友の 手紙を
しるす

Handwritten notes in a smaller script, possibly a list or index, located at the top of the left page.

Handwritten text in a cursive script, continuing the transcription or notes on the left page.

傳信述而

述而不作信而好古六編比於我先彭述而曰
傳而已作創始也先彭殷代賢人道傳如此

有りては... 傳へん

第一 傳傳傳 あるまじき傳傳の伝

傳傳傳 芳角... 傳傳傳の人といふ

伝伝伝

史記 楚ノ傳... 傳傳傳 齊ノ傳... 楚ノ傳... 漢ノ傳...

方朔... 傳傳傳

齊楚... 傳傳傳... 傳傳傳

行... 傳傳傳... 傳傳傳

人々々々

傳傳傳... 傳傳傳... 傳傳傳

傳傳傳... 傳傳傳... 傳傳傳

傳傳傳... 傳傳傳... 傳傳傳

傳傳傳... 傳傳傳... 傳傳傳

傳傳傳... 傳傳傳... 傳傳傳

傳傳傳... 傳傳傳... 傳傳傳

傳傳傳... 傳傳傳... 傳傳傳

の様多し付く事々佩飾列座の得格の事々
居く事々付く得格の佩飾目録

諷諫 諷諫 諷諫 諷諫 諷諫
諷諫 諷諫 諷諫 諷諫 諷諫

佩飾 佩飾 佩飾 佩飾 佩飾

佩飾 佩飾 佩飾 佩飾 佩飾

佩飾 佩飾 佩飾 佩飾 佩飾

佩飾 佩飾 佩飾 佩飾 佩飾

佩飾 佩飾 佩飾 佩飾 佩飾

佩飾 佩飾 佩飾 佩飾 佩飾

佩飾 佩飾 佩飾 佩飾 佩飾

佩飾 佩飾 佩飾 佩飾 佩飾

佩飾 佩飾 佩飾 佩飾 佩飾

佩飾 佩飾 佩飾 佩飾 佩飾

佩飾 佩飾 佩飾 佩飾 佩飾

Handwritten text in cursive script, likely a list or index of names and titles. The text is written vertically from right to left.

Handwritten text in cursive script, continuing the list or index. The text is written vertically from right to left.

Handwritten text in cursive script, possibly a title or a specific entry. The text is written vertically from right to left.

Main body of handwritten text in cursive script on the left page. It contains several lines of text, including what appears to be a list of names and titles, written vertically from right to left.

一 氏古今はまゝに、世のあつたに、
まゝに、まゝに、まゝに、まゝに、
字、或、何、何、何、何、何、何、
あ、い、い、い、い、い、い、い、い、
く、く、く、く、く、く、く、く、
あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、

日、梅、梅、梅、梅、梅、梅、梅、
あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、

あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、
あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、

あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、

あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、

あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、

あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、

あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、

おのゝつゝいふる事

引取 後述及持事 御事 御事 御事 御事

し 今も 御事 御事 御事 御事

おのゝつゝいふる事

傳目

傳目 御事 御事 御事 御事

御事 御事 御事 御事

御事 御事 御事 御事

御事 御事 御事 御事

御事 御事 御事 御事

御事 御事 御事 御事

御事 御事 御事 御事

御事 御事 御事 御事

御事 御事 御事 御事

御事 御事 御事 御事

御事 御事 御事 御事

多 様 基 礎 的 事 業 的 進 行 上 必 ず 必 ず 必 ず
必 ず 必 ず 必 ず 必 ず 必 ず 必 ず 必 ず
必 ず 必 ず 必 ず 必 ず 必 ず 必 ず 必 ず
必 ず 必 ず 必 ず 必 ず 必 ず 必 ず 必 ず
必 ず 必 ず 必 ず 必 ず 必 ず 必 ず 必 ず

本 多 様 的 事 業 的 進 行 上

必 ず 必 ず 必 ず 必 ず 必 ず 必 ず 必 ず
必 ず 必 ず 必 ず 必 ず 必 ず 必 ず 必 ず
必 ず 必 ず 必 ず 必 ず 必 ず 必 ず 必 ず
必 ず 必 ず 必 ず 必 ず 必 ず 必 ず 必 ず
必 ず 必 ず 必 ず 必 ず 必 ず 必 ず 必 ず

多 様 的 事 業 的 進 行 上 必 ず 必 ず 必 ず
必 ず 必 ず 必 ず 必 ず 必 ず 必 ず 必 ず
必 ず 必 ず 必 ず 必 ず 必 ず 必 ず 必 ず
必 ず 必 ず 必 ず 必 ず 必 ず 必 ず 必 ず
必 ず 必 ず 必 ず 必 ず 必 ず 必 ず 必 ず
必 ず 必 ず 必 ず 必 ず 必 ず 必 ず 必 ず
必 ず 必 ず 必 ず 必 ず 必 ず 必 ず 必 ず
必 ず 必 ず 必 ず 必 ず 必 ず 必 ず 必 ず
必 ず 必 ず 必 ず 必 ず 必 ず 必 ず 必 ず
必 ず 必 ず 必 ず 必 ず 必 ず 必 ず 必 ず

本 多 様 的 事 業 的 進 行 上 必 ず 必 ず 必 ず

天竺の地味と草木

天竺の地味は、
土質が硬く、
草木は乾燥に
耐える種類が
多い。

天竺の地味は、
土質が硬く、
草木は乾燥に
耐える種類が
多い。

天竺の地味は、
土質が硬く、
草木は乾燥に
耐える種類が
多い。

天竺の地味は、
土質が硬く、
草木は乾燥に
耐える種類が
多い。

天竺の地味は、
土質が硬く、
草木は乾燥に
耐える種類が
多い。

天竺の地味は、
土質が硬く、
草木は乾燥に
耐える種類が
多い。

天竺の地味は、
土質が硬く、
草木は乾燥に
耐える種類が
多い。

天竺の地味は、
土質が硬く、
草木は乾燥に
耐える種類が
多い。

抄のうす年と終りまはせりていふまはるの傳はるは
のまはるまはせりていふまはるの傳はるは
とらふ一けり行りていふまはるの傳はるは
まはるまはせりていふまはるの傳はるは
終りていふまはるの傳はるは
まはるまはせりていふまはるの傳はるは
とらふ一けり行りていふまはるの傳はるは
まはるまはせりていふまはるの傳はるは

さうして抄の他傳はるは
まはるまはせりていふまはるの傳はるは
とらふ一けり行りていふまはるの傳はるは
まはるまはせりていふまはるの傳はるは
さうして抄の他傳はるは
まはるまはせりていふまはるの傳はるは
とらふ一けり行りていふまはるの傳はるは
まはるまはせりていふまはるの傳はるは

抄のうす年と終りまはせりていふまはるの傳はるは
とらふ一けり行りていふまはるの傳はるは

Phosphorus in Gas. Gas in Phosphorus

一、この書は自然の現象を説明するに用いられるべきものである

よ、その性質を研究するに用いられるべきものである

の、その性質を研究するに用いられるべきものである

の、その性質を研究するに用いられるべきものである

の、その性質を研究するに用いられるべきものである

の、その性質を研究するに用いられるべきものである

の、その性質を研究するに用いられるべきものである

海は水の性質を研究するに用いられるべきものである

の、その性質を研究するに用いられるべきものである

の、その性質を研究するに用いられるべきものである

の、その性質を研究するに用いられるべきものである

の、その性質を研究するに用いられるべきものである

の、その性質を研究するに用いられるべきものである

の、その性質を研究するに用いられるべきものである

の、その性質を研究するに用いられるべきものである

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document, written on the left page of an open notebook. The text is dense and fills most of the page.

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or document, written on the right page of an open notebook. The text is dense and fills most of the page.

第(一)卷のついでに、この巻のついでに、

第(二)卷のついでに、この巻のついでに、

第(三)卷のついでに、この巻のついでに、

第(四)卷のついでに、この巻のついでに、

第(五)卷のついでに、この巻のついでに、

第(六)卷のついでに、この巻のついでに、

第(七)卷のついでに、この巻のついでに、

第(八)卷のついでに、この巻のついでに、

第(九)卷のついでに、この巻のついでに、

第(十)卷のついでに、この巻のついでに、

第(十一)卷のついでに、この巻のついでに、

第(十二)卷のついでに、この巻のついでに、

第(十三)卷のついでに、この巻のついでに、

第(十四)卷のついでに、この巻のついでに、

第(十五)卷のついでに、この巻のついでに、

第(十六)卷のついでに、この巻のついでに、

第(十七)卷のついでに、この巻のついでに、

第(十八)卷のついでに、この巻のついでに、

第(十九)卷のついでに、この巻のついでに、

第(二十)卷のついでに、この巻のついでに、

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged, yellowish paper. It consists of approximately 10 lines of text, starting with a large initial letter. The script is highly stylized and difficult to decipher without a key.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a dark ink on aged, yellowish paper. It consists of approximately 10 lines of text, starting with a large initial letter. The script is highly stylized and difficult to decipher without a key.

そありのふし けしき けしき けしき けしき

けしき けしき けしき けしき けしき

けしき けしき けしき けしき けしき

のけしき

けしき けしき けしき けしき けしき

けしき けしき けしき けしき けしき

けしき けしき けしき けしき けしき

けしき けしき けしき けしき けしき

けしき けしき けしき けしき けしき

けしき けしき

けしき けしき けしき けしき けしき

けしき けしき けしき けしき けしき

けしき けしき

けしき けしき けしき けしき けしき

けしき けしき

玉珠 多なる他信の事なりと云ふは其の信

信の事なり

何信の事なり 其の事なりと云ふは其の信

信の事なり 其の事なりと云ふは其の信

信の事なり 其の事なりと云ふは其の信

信の事なり 其の事なりと云ふは其の信

信の事なり 其の事なりと云ふは其の信

信の事なり 其の事なりと云ふは其の信

入るる方長と云ふは其の事なりと云ふは其の信

上なる事家 其の事なりと云ふは其の信

あらん

人と云ふ事 其の事なりと云ふは其の信

の事なりと云ふは其の信

老信の事なり 其の事なりと云ふは其の信

其の事なりと云ふは其の信

其の事なりと云ふは其の信

そとにうらなひのたふさ

鳥のたふさのたふさのたふさ

。

さのたふさのたふさのたふさ

たふさのたふさのたふさ

たふさのたふさのたふさ

たふさのたふさのたふさ

たふさのたふさのたふさ

たふさのたふさ

たふさのたふさのたふさ

たふさのたふさのたふさ

たふさのたふさのたふさ

たふさのたふさのたふさ

たふさのたふさのたふさ

たふさのたふさのたふさ

たふさのたふさのたふさ

たふさ

1
The first part of the book is devoted to a description of the
various forms of the word "God" in the Bible. The author
shows that the word is used in many different senses, and
that it is often used in a way which is not intended to
imply the existence of a deity. He then proceeds to show
that the word is used in a way which is intended to imply
the existence of a deity. He concludes that the word "God"
is used in a way which is intended to imply the existence
of a deity.

2
The second part of the book is devoted to a description of the
various forms of the word "God" in the Bible. The author
shows that the word is used in many different senses, and
that it is often used in a way which is not intended to
imply the existence of a deity. He then proceeds to show
that the word is used in a way which is intended to imply
the existence of a deity. He concludes that the word "God"
is used in a way which is intended to imply the existence
of a deity.

(1) *Handwritten text, possibly a date or reference number.*

Handwritten text, possibly a name or title.

